本荘ふるさと会

本荘ふるさと会会報
第 12 号
平成 8 年 3 月 25 日
編集・発行
本荘ふるさと会
編集委員会
事務局
◇秋田県本荘市出戸町字尾崎17
☎0184（24）3321
◇東京都大田区北馬込
荒川医院内
題字　後藤竹清

ご紹介ください 会員募集中!!

会の充実と発展・拡大を図るため新会員を募集しています。親族、知人等可能な範囲において、本荘市出身首都圏在住者をご紹介ください。

お問合せ
本荘市総務部企画調整課内
本荘ふるさと会　事務局
☎0184－24－3321（内）279

本荘ふるさと会 平成七年度総会開催

会場はふるさと本荘一色に

平成七年度本荘ふるさと会総会懇親パーティーは、来賓、会員など百九十三名が出席し、平成七年十一月十二日「目黒雅叙園」で開催され、一年ぶりの再会に話しがはずみました。

はじめに、荒川会長が「ふるさと本荘とのきずなを大切に、発展に寄与したい」とあいさつ。続いて六年度事業報告・決算報告、七年度事業計画・予算案が満場一致で原案どおり可決承認されたほか、名誉会長と相談役を新たに設ける会則改正案や任期満了に伴う役員の改選案が審議され提案どおり可決されました。

引き続き開催されたパーティーでは、長年にわたり役員としてご尽力いただき、今期で退任された塚本信一、吉田英子（副会長）佐々木司郎（監事）、増川妙子、石川充（常任幹事）、新堀澄（幹事）の六氏に感謝状と記念品が贈呈されました。

来賓として出席した柳田弘本荘市長は、「本荘市由利郡をあげて秋田県立大学の誘致に取り組んでいる。会員の皆様にもご協力をお願いしたい」と述べたほか、組合病院跡地の活用構想、総合福祉エリア計画など、本荘市が取り組んでいるプロジェクトの報告や最近のふるさとの状況を交えてあいさつ。

本荘市物産協会会員店の協力によるプレゼント抽選会では、松本常任幹事によるユーモアあふれる秋田弁の司会進行に大喝采。

アトラクションは昨年も出演した、日本民謡協会名誉教授佐々木貞勝さんの一行と、平成六年度の本荘追分全国大会で優勝した浅野麻里子さんによる秋田民謡や本荘市物産協会のご協力で本荘から駈けつけた「本荘民謡踊り同好会」の藤原和枝さんほかの皆さん四名に踊りで花を添えていただきました。

また、会員が歌う本荘市のイメージソング「水辺のまち～本荘」にあわせた振り付けでの踊りが披露され、会場は本荘一色。例年開催している本荘市特産品展示即売会も大盛況でした。

一方、一九九六年版ふるさとカレンダーの販売コーナーは原画作者である五島まさを画伯のサイン会も開かれカレンダーを求める多くの会員でにぎわいました。

アトラクションの秋田民謡で盛り上がる

恒例の物産品販売が盛況

秋田県立大学 理工系学部は本荘市に設置

本荘由利十三万圏民の熱意が実る 本荘ふるさと会、署名が二千人を超える

秋田県が進めている四年制の県立大学の設置について一月十六日秋田県知事が記者会見し、本荘市に理工系学部を、大学本部と生物資源系学部を、秋田市に設置することを発表しました。

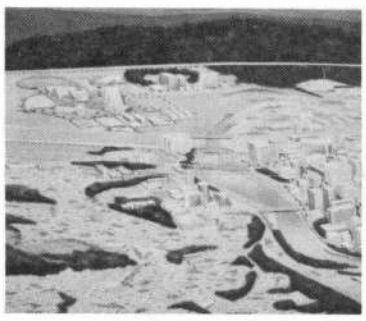
その後、二月十三日に示された基本構想では、本荘市に設置する学部は「システム科学技術学部」で▽機械知能システム（定員八十人）▽電子情報システム（同）▽建築環境システム（四十人）▽経営システム工学（同）の四学科二百四十人となっています。

一方生物資源系学部は三学科九十人で、開学は平成十一年四月を目標としています。

本荘市に設置される学部は、ロボットシステム、電子デバイス、コンピューターネットワークシステムの研究や、建築デザインから環境制御、経営システムは、情報化時代の企業・組織経営の変化に対応できる人材の育成を目指すこととしています。

本荘市では、設置予定場所である南内越地区川口の大覚地内に、約二十五ヘクタールの用地取得と、本荘由利地域に集積している先端技術産業が大学の研究を有効に活用できる研究施設整備のため一月二十二日付で、新たに総務部に「県立大学設置準備事務局」を置き、同日、専任六名、兼任・併任十九人の人事異動を発令し、万全の体制を整えました。

本荘ふるさと会会員の皆さんからはこの間、秋田県知事宛の大学誘致署名をお願いしましたが、二百十九件二千十三人の署名が集まりました。ご協力に心から感謝申し上げます。


学園都市づくりのイメージパース

任期満了に伴う役員改選の結果 新役員は次のとおり

・名誉会長
本荘市長　柳田弘

・顧問
衆議院議院　村岡兼造
国民金融公庫副総裁　土田正顕
島根県総務部長　椎川忍

・相談役
塚本信一　足立区
吉田英子　世田谷区
佐々木司郎　千葉市

・会長
荒川七郎　大田区

・副会長
五味芳保　港区
三浦昭太郎　足立区
荘司榮徳　千葉市
畑山ッイ　八王子市

・幹事長
飯田金広　板橋区

・常任幹事
安保進　小金井市
工藤紘治　川崎市
池田哲三　国分寺市
工藤晋　練馬区
松本幸江　横浜市
安井賢光　川口市
小林ミェ子　与野市

・幹事
安田純博　大田区
井上トシ　練馬区
小松幸円　海老名市
三浦敏男　足立区
三浦恒雄　千葉市
山本智恵子　大宮市
千葉伊保子　横浜市
宗順　横浜市
三浦孝悦　横浜市
伊藤浩二　横浜市
高橋光三　市原市
荘司和彦　葛飾区

・監事
鈴木英子　木更津子
嵯峨謙一　藤沢市

本荘ボートプラザ・アクアパル オープン間近 五月十二日、竣工記念に「早稲田／慶応レガッタ」を開催

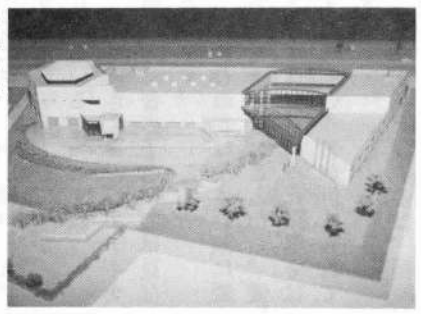
平成六年八月に着工した河川利用総合レクリエーション施設〝アクアパル〟は、平成八年二月末日で本体工事がすべて完了し、四月オープンの準備に追われています。

この施設は市民スポーツとしてすっかり定着したボートの収納機能を持つ「ボートガレージ」や「水と川のミュージアム」「多目的ホール」、子吉川が一望できる「スカイギャラリー」などの複合施設で、五月十二日の竣工記念式典当日は、伝統の早稲田・慶応レガッタを開催する予定です。

化遺産を保存伝承し地域の歴史を見つめ直すとともに、環境整備によって観光誘客を図ろうというものです。

伝承文化保存伝習施設「東光館」は木造平屋建四百十八平方メートルで、展示室、陶芸実習室、集会室などの機能を備えています。

展示室には、是山禅師自筆の書や袈裟など禅師ゆかりの品や、同地区出身の日本画家堀川達三郎氏の作品を展示するほか、隣接する広場には、訪れる人の憩いの場として、炊事場、バラ園、菖蒲園、遊具や芝生広場を配置しています。


4月オープンの〝アクアパル〟（模型）

文化・観光の拠点　赤田交流促進施設整備事業 「五峰苑」「東光館」が完成

赤田長谷寺の十一面観世音菩薩は「赤田の大仏様」で知られていますが、毎年八月二十二日には、全国的にも珍しい神仏混交の祭典が行われるほか、周辺地域には獅子舞などの民族芸能や是山禅師にまつわる逸話や遺品が保存伝承されています。

この施設は、こうした地域に残る貴重な文

大仏様の由来

赤田の大仏は天明四年（一七八四年）、是山禅師五三歳の時、観音歓請の心願から製作し、天明六年に十一面立像観音を成就しましたが、明治二十一年不幸にして火災に遭い、焼失。現在の観音様は、明治二十六年に再建されたものです。

新たな文化・観光拠点「東光館」

会員の健康（Ⅶ）

『心さわやかに』

医学博士　荘司榮徳
（千葉市在住・裏尾崎町出身）

卒業が近づけば就職難で悩み、就職すれば上司に気をつかい、中年になれば部下と上司の板挟み、定年間近になれば先の心配と悩みは尽きない。

主婦も、夫の支え、子育て、家計のやりくり、近所付き合い、親戚付き合い、とストレスが多い。

こうストレスが多くては、潰されまいと思っても、心が沈む時もあろう。だが負けてはいられない、落ち込んではいられない。

自分の心をいつも活き活きとさせるように、普段から心掛けるべきことを五つほど挙げてみようと思う。

①素直に心を開こう。

嬉しいときには悦び、笑い、辛いときには辛いと人に訴え、涙を流す。勘繰ったら先回りをして考えたりせず、目の前に起こったことを感じたまま素直に受け入れることにしよう

②心くばりをこまやかに。

人と接するときは、笑顔で声をかけよう。先に声をかけられたらニッコリ笑顔で応えよう。

話すとき、一緒に行動するときは、相手の身になって、気配りを忘れないようにしよう。自分で世間を狭くすることはない。

③考えにゆとりを持とう。

いくら努力してもうまく行かないこともある。駄目と思っていても急に道が開けることもある。

「人事を尽くして天命を待つ」といったゆとりを心のどこかに持っていることが必要。

相手の人柄を知ることは大切だが、先入観で決めつけてしまってはいけない。

④心を集中しよう。

これという趣味を持ち、時間を作って心を打ち込む。職場のいやなことやトラブルを忘れるほどに集中できたら心が生き返る。

趣味ばかりではない。使命を感じ、希望がもてるならば、仕事であっても同じこと、心を集中し、没頭できるものを持ち、生きていることの実感を抱くこと。

⑤心の友を持とう。

家族や職場の仲間、知人、友人誰でもいい、心配や悩みを率直に打ち明けられる「心の友」を持っている人は幸せである。

或る詩人が「この世に一人、できれば二人、自分を心から励ましてくれる人をつくるといい」と言っている。

ふるさとへのこだわり

光風園の土俵（1）

江戸時代の大関「九紋龍」は錦絵に長身の堂々たる勇姿を現世に残している。

この力士が本荘市（旧）石沢村の出身であることを知る本荘市民がどれくらいいるであろうかと気にかかる。秋田県出身の大関としては「能代潟」や「清国」がいた事は知る人が多い。「九紋龍」の場合、九州は久留米藩のお抱え力士となったため久留米出身と思われているのだ。

私が本荘中学校三年生のとき柔道部であったが、由利郡の相撲大会に団体戦の先鋒として出場することになり、はじめて光風園の土俵を踏んだとき、土俵の天井に「四本柱の由来」として、この土俵は南部藩との相撲において功績をあげた後の大関「九紋龍」のために建てられた四本柱であることや、石沢村の出身で、きわめて長身であったことが記されてあった。

近年本荘に帰った折懐かしく思い、光風園の土俵を訪れたがみるかげもなくボロボロの状態に落胆、本荘高校東京同窓会の席でこの状態を出席された先輩や後輩に、酔った勢いもあってか訴えたことがあった。

現在この土俵は須藤家より市に寄贈されたと聞く。一日も早く土俵を再建することと土俵の由来について本荘市民の皆様に知らせていただきたく思います。

会員　工藤　晋

「ふるさとの子吉川」(4)

子吉川の珍しい魚

―ヒイラギの紹介―

本荘市社会教育指導員　木谷豊四

子吉川の風物詩の一つは、雪解けを待って行われる勇壮な鯉の追い込み漁であろう。

漁師の川面に吐く息も白く、船底で躍動する鯉が川の春を告げ、寒のハヤを釣る人たちの出番を誘うのである。

防寒具に身を包み、浮木の動きに集中している釣人の姿も、由利橋から眺める美しい風景の一つである。

子吉川において既住の主な魚類調査文献などで記載されている魚種は四十七種であるが、現在確認できるのはそのうち二十種ぐらいである。

本荘ふるさと会会員の皆様には昔の川を偲ばれて、どんな魚が思い出されるのでしょうか。

昨秋、子吉川河口近くで珍しい魚が釣れましたので紹介します。

市理科教育センターの研修員が市販のキス釣り仕掛けでハゼを釣っていたら、ヒイラギという魚が釣れたのです。

体型は〈写真〉のとおりですが、分布は、本州中部以南の南方系で「柊」と書きます。クリスマスツリーの木の葉のように、刺のあるところが似ているからです。

この魚の特徴は、食道をとり巻いて発光腺があり、発光バクテリアが光ること、いま一つは、口（上顎）を前に管のように突出させて音を出すこと。

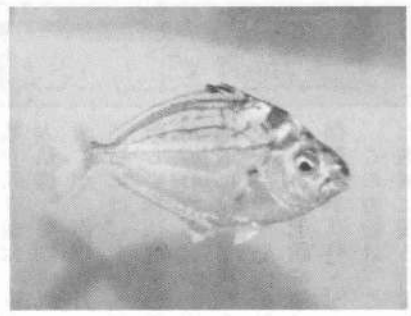
東京、千葉、広島ではその音から「ギギ」とか「ギチ」という名を付けて呼んでいます。機会がありましたら魚屋さんで確かめてみてください。前上顎骨と額骨をこすって音を出すのですが、不思議な魚もいるものですね。

手で押さえると「ギチギチ」と鳴く魚。昔の子吉川では見なかった魚です。

背びれの刺は小さい割に鋭いので猫も食べないことから、愛知県ではネコマタギ、兵庫県ではネコクワズという名が付けられています。

ヒイラギと呼ぶのは、長崎、愛媛、富山など。食べ方は、刺を持っているため酢漬にして骨を軟らかくして賞味したり、吸物によいそうです。

産卵期は五・六月で沿岸に住む海水魚ですが、淡水の影響を受ける内湾の浅いところから河口付近にかけて、砂底に群れをなして生息するので、ふるさと会会員で釣り好きの皆様、いつか河口近くで銀白色の鮮やかなヒイラギ釣りを楽しんでみませんか。



子吉川の珍客ぎちぎちならぬヒイラギ

子吉川の純淡水魚はウグイ、オイカワ、コイ、ニゴイ、フナ。回遊魚ではアユ、サケ、ヤツメ、ウキゴリなど。汽水魚はスズキ、マハゼ、クサフグなどです。

まもなく水辺のまち本荘に「ボートプラザ〝アクアパル〟」がオープンしますので、会員の皆様のおいでをお待ち申し上げております。

会員の文芸（詩）

施設のI君

木村登志

「こいつは馬鹿だから！
馬鹿だから！」
何度も大声でいう
O先生のことばに
同じように生を受け
同じように一時の朝露のように
消えてゆく
私らとI君と
どこに違いがあるだろうか
ふと脇に立たされているI君の
額を見ると
汗が出ている
手の甲でぐいっとぬぐったI君
歌が好きなのに
歌えない言葉のないI君
つねったりドアを叩いたり
とても暴れん坊だと知ったけれど
にくめない

【会員の催し物】

画廊企画「第13回出版人美術展」

とき　四月二十九日（月）から五月四日（土）まで
午前十一時から午後六時
（初日午後一時から、最終日は午後五時まで）
ところ　日比谷「やまがた画廊」
千代田区有楽町1～8～1
日比谷パークビル地下2階
☎03―3271―9222

ふるさと会会員工藤晋さんも出品します。

会員皆様のご来場をお待ちいたしております。

高桑マリア第九回油絵個展

とき　六月十日（月）から六月十五日（土）まで
午前十一時から午後六時三十分
（最終日は午後五時まで）
ところ　資生堂ギャラリー9F
中央区銀座8―8―3
☎03―3572―2121

高桑マリアさんは、ふるさと会の会員で、東京と南仏カンヌにアトリエを持ち、主にヨーロッパを中心に活躍中。

また、パリのサロン・ドートンヌ、ル・サロン、日本美術家連盟の各会員で、

・南仏国際展
・フランス・カンヌ国際展
・欧州秀作選賞大賞
・デミトリス　ミタラス大賞
・韓日国交正常化美術交流展準グランプリ

ほか数々の賞を受賞し、日本では一九九三年二科初入選、以後毎年出品しており、スペイン、モロッコ、南太平洋などの風景・海・花・静物などを精力的に描き続けています。

ふるさと会会員の皆様にはお誘いあわせの上、是非おいでくださいますようお願いいたします。

（アトリエ日本）
東京都新宿区四谷一―十一
☎03―3358―6656

本荘の話しことば

あわしまさん

『どっから来たもんだが分からねども「あわしまさん」っていうのが来たもんです。

晒の布コー頭の両側さ角コ出して被って羽黒山あだりで修業して歩てる恰好あんでしょう?。あんた恰好して脚絆まで（巻いて）草鞋はで（履いて）背中さ阿弥陀さんのお厨子の小さいの背負ってるな。こっちで何がお願いしてごどあれば、追って行って玩具みだいな物上げでお願いして、お厨子さ下げだな。その下げだ物同志がぶっつかり合ってちゃらちゃらど音がするの。修業の為歩てるもんでながったでしょが。

余り部屋にいろいろ下げでおぐど「あわしまさんみでんた」って言ったもんだ。真似するなっていうごどでしょ。どういう訳だがな。なにせちっせどぎの話だおの』

肴町　長谷川千代さんから伺った昔のお話

本荘市五軒町　佐藤勵子（主婦）発行「本荘の話しことば」より転載